

最新ツールで高度化を目指す

デジタルトランスフォーメーション

内部監査におけるDXの活用ポイント

有限責任監査法人トーマツ
公認内部監査人

徳永 貴志

【この章のエッセンス】

●DX推進は、今後の企業の成長を左右する。内部監査は、DX推進におけるリスクとコントロールを適切に把握・評価することで組織に大きな価値を提供できる。

●内部監査業務においても、リスクセンシング、AI／CI、プロセスマイニング、GRCツールなどのDXツールを活用し、有効性と効率性を大幅に向上できる。

DX(デジタルトランスフォーメーション)とその活用

(1) DXとは

昨今デジタル技術を使った新たなビジネスがあちこちで展開され、DX(デジタルトランスフォーメーション)という言葉もかなり浸透した。このDXは単なるIT活用とは異なり、今後の企業の成長を著しく左右するものである。経済産業省の「デジタルトランスフォーメーションを推進するためのガイドライン」(DX推進ガイドライン)によると、DXとは「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタ

ル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」とある。

実際に、デロイトによる調査

(Deloitte Digital Transformation Executive Survey 2018)において、デジタルマチュリティ(成熟度)が高い企業では、売上と純利益に関して「業界の平均をはるかに上回っている」と回答した企業がどちらも49%に上った。一方でデジタルマチュリティが低い企業では、それぞれ19%と17%にとどまった。この調査結果からは、DXの推進が、新たな機会の発見や収入源の開発、また、顧客や市場の要求への迅速な対応、

そして業務の効率性の大幅な向上を実現していることが読み取れる。

日本企業でもここ1〜2年でRPA(ロボティクス・プロセス・オートメーション)、CI(コグニティブ・インテリジェンス)また両者を合わせたRCA(ロボティクス・コグニティブ・オートメーション)がかなり普及しており、クラウドの普及も含めると、経営者や働き手として「ビジネスモデルや組織、プロセス、企業文化・風土の変革」を経験されている方も多くいらつしやるであろう。

(2) ビジネスにおけるDXの活用

ビジネスの場で、IoT、RCA、AR／VRなどの新技術を活用したDXの事例はすでにさまざまな媒体で紹介されているため、この誌面では割愛するが、大きくは4つの領域に分類できる。

第1に、社内業務の自動化である。RCAなどを活用した処理の自動化や判断の自動化、報告の自動化である。効果も出やすく多くの企業が導入している。

第2に、バリューチェーン／サプライチェーンのデジタル化である。たとえば、RCAを活用したデジタ